

都市再生整備計画(第1回変更)

とうやみず えきしゅうへん
洞爺水の駅周辺地区

ほっかいどうとうやこちょう
北海道洞爺湖町

平成19年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	北海道	市町村名	洞爺湖町	地区名	洞爺水の駅周辺地区	面積	75.1 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標: 洞爺湖の自然や洞爺湖町の文化、産業を有機的に結びつけながら、潤いと魅力ある滞在型観光の推進と安全・安心な中心市街地の活性化を図る。

目標1 洞爺湖の自然や温泉と触れ合う施設を設置し、町民と来訪者の交流を図る。

目標2 町が収蔵する芸術作品や郷土資料、歴史の紹介ができる文化交流施設(既存施設の再活用)やイベント広場を中心に、市街地内の賑わいを創出する。

目標3 道路・広場の整備改善により、交通アクセス・交通安全・歩行者の快適性等、安全・安心な市街地を形成する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・旧洞爺村は、北海道が代表する洞爺湖観光ゾーンやニセコ・羊蹄観光ゾーンの接点に位置し、農業・観光を基幹産業として発展してきたが、本地区は旧洞爺村の中心市街地で洞爺湖湖畔に接する風向明媚な地区でありながら、主要なアクセス道から一歩踏み込んだ立地と観光装置が無いことから、一過性の夏季集中型の交流にとどまっておられ、いわば観光的なエアポケットの状態にある地区と言える。また、支笏洞爺国立公園に位置する各種規制や景観的付加価値にともなう地価の高沸から、従来型の観光産業の集積も困難である。しかしながら従来の観光地づくりがややもすると、地元住民や地場産業から遊離した形で振興した過程を踏まえると、旧洞爺村の場合は各種条件から「まちづくりそのものが新しい観光づくり」になっている要素を必然的に背負っていると言える。

・旧洞爺村の人口は、昭和30年の3,798人をピークに平成17年3月末で1,933人まで減少しており、過疎化及び中心市街地の空洞化が進む中、平成7年に旧村域の自然特性と利用特性を有効的に組み合わせさせた「洞爺村土地利用計画」が策定され、21世紀に向けた村づくりの方向性が示された。平成8年には優れた地場資源を有機的につなぎあわせるとともに、広域的視点にたった役割分担を踏まえ、自然・文化・産業・生活が一体となった「洞爺村観光振興ビジョン」が策定され、平成13年には旧村民の暮らしを支えると同時に観光客にも魅力があり、旧村民との交流を深める中心市街地の再生・活性化をめざす「洞爺村中心市街地活性化基本計画」が策定され、現在に至っている。

・また、洞爺湖を囲む旧3町村(旧洞爺村・旧虻田町・壮瞥町)の共同事業により、平成元年、「洞爺湖ぐるっと彫刻公園」での野外彫刻の設置がスタート。現在、58基の彫刻が周囲36kmの洞爺湖畔をぐるっと囲んでいる。この中で国内屈指の彫刻家等の支援のもと、旧洞爺村の「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ構想」が生まれ、平成5年、「わが国初の小型の国際彫刻展」がスタートした。本事業の最大の特徴は、準備からPR・募集・展覧会・サブイベント等すべて外部に委託等を行わず旧村民の手づくりで行われている点である。平成17年度(第7回)の応募作品の国と数は62ヶ国、600点であり、「小さな村の大きな試み」「村民手づくりの地域づくり」として内外から大きな反響を呼んでいる。

課題

基幹産業の停滞や高齢化・人口流出を背景に厳しい財政事情を考えた時、旧洞爺村のまちづくりでは、自然資源や文化資源を最大限に活用し、尚且つ観光客との交流が日常生活のなかに自然に取り込まれる“町ぐるみ観光”が求められており、本地区では ①旧洞爺村の顔作りのための湖岸、温泉等自然資源や町が収蔵する文化資源を如何に活用するか ②町民の暮らしを支え、観光客に魅力のある商店街環境(中心市街地空間)を如何に再生するか ③町民、観光客にも安全・安心な歩行者空間(施設回避機能)を如何に創出するか ④来訪者に満足してもらえるホスピタリティや情報提供の向上を図るためのまちづくり人材の育成システムを如何に構築するか、が課題となる。

将来ビジョン(中長期)

旧総合計画: 「21世紀の扉をひらく”きらりと光る”洞爺をめざして=人が輝き、産業が輝きそして自然が輝くふるさとづくり」をテーマとし、①地域が輝く村づくり ②笑顔が輝く村づくり ③産業が輝く村づくり ④心が輝く村づくり ⑤人が輝く村づくりを五つの柱とし、まちづくりの基本方針は、住民参加で進める個性が光る村づくり、個性を生かしたビジネス創出の村づくり、交流から定住を誘う魅力ある村づくりと、定めている。

洞爺村観光ビジョン: 「遊びながら暮らす・暮らしながら学ぶ」をテーマに、①地域の歴史・文化・伝統・生活の活用(生活スタイルの見直しと再発見)、②地元産業を活用(参加体験や技術の活用を通じた新たな総合産業構築)、③自然環境の保全(景観やまちそのものを楽しんでもらうことを演出)、④長期的スパンの取り組み(来訪者にもう一つの生活の場、生涯学習の場を提供)を基本的な考え方とし、戦略テーマを農業及びその景観をベースにした暮らし観光、自然のワイズユースを実現した暮らし観光、文化のある暮らし観光と定めている

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
いこいの家・湖ふれあいセンターの来館者数	人/年	いこいの家・湖ふれあいセンターの来館者数	新たな観光拠点の整備により、観光入込み客95万人のうち、これらの施設に立ち寄る住民及び来訪者を10%とし、交流の促進を図る。	61,000人	平成16年度	95,000人	平成22年度
芸術文化作品の展示施設への来館者数	人/年	水の駅2階で開催している国際彫刻ビエンナーレ紹介展の来館者数	新たに芸術文化交流センターを設置して作品等を展示することにより、市街地の魅力づくりと賑わいの創出による目標達成を目指す。	5,000人	平成16年度	15,000人	平成22年度
交通利便性、市街地景観の満足度	%	道路・広場新設、グレードアップによる来訪者・村民の満足度	避難路の確保や歩道空間の改善等により、村民を含めた満足度80%を目指す。	58%	平成16年度	80%	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・整備方針1. (洞爺湖の自然や温泉を通じた交流空間の充実と中心市街地の活性化): 錦川親水広場・水の駅広場等、観光客が洞爺湖と接する親水空間整備と、町民のみならず、観光客も利用する温泉施設の増改築整備、体験観光施設であるカヌー工房の改築を行うことにより、交流空間の充実を図る。</p>	<p>洞爺湖水広場整備事業(基幹/町)、水の駅広場整備事業(基幹/町)、錦川親水広場整備事業(基幹・提案/町)、いこいの家交流機能強化事業(提案/町)、湖ふれあい交流センター整備事業(基幹・提案/町)</p>
<p>・整備方針2. (既存の文化資源を活用した"町ぐるみポケット博物館"の展開): 洞爺湖ぐるっと彫刻公園整備や今まで收藏されてきた芸術作品のほか郷土資料・歴史の紹介と同時に、町民と様々な形で交流を深める文化交流施設を旧役場等を再活用することや農業と商業を連携したイベント広場の設置により、市街地観光の回遊性と交流性を高め、賑わいを創出する。</p>	<p>芸術文化交流センター整備事業(基幹・提案/町)、農・商連携広場整備事業(基幹/町)、洞爺望羊台の整備事業(基幹・提案/町)</p>
<p>・整備方針3. (道路の整備改善と交通アクセス、交通安全の向上): 水の駅と芸術文化交流センターのアクセスを改善するための道路整備、また、観光導線であると同時に町民の主要生活幹線道路でもある道道豊浦洞爺線の歩道整備事業に併せた、歩道のグレードアップにより、快適で安全な道路空間を整備する。また、当等地区への入り口にあたる国道・道道の交差点を洞爺望羊台として整備し来訪者の慰楽向上を図る。</p>	<p>芸術文化通りの整備事業(基幹/町)、道道豊浦洞爺線の歩道整備事業(関連/道)、市街地歩道照明整備事業(基幹/町)、洞爺望羊台の整備事業(基幹・提案/町)</p>
<p>その他</p>	
<p>旧洞爺村には、まちづくりに関連する団体として「洞爺村花いっぱい運動推進協議会」と「財田地区自然ふれあい利用協議会」があり、「洞爺村花いっぱい運動推進協議会」では苗の育成・供給や視察研修・公共花壇のアンケート調査の実施を、「財田地区自然ふれあい利用協議会」では洞爺財田自然体験ハウスの運営や自然ふれあい体験活動に係わる事業等、官民一体となった"町ぐるみ観光"が進められているが、今後は受け入れ態勢の整備や人材育成の組織づくりをめざしたNPO法人(仮称)「洞爺まちづくり観光協会」の実現を目指し、町民が観光ボランティアとなる体制を構築していく予定である。</p> <p>また、"洞爺湖村国際彫刻ビエンナーレ"を企画・運営する「企画50人委員会」は現在85名のメンバー2部体制で活動を続けており"観光+アートによる町づくり"も連携し進めていく予定である。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について</p> <p>目標に向けて確実な効果を上げるため、町と観光協会・商工会が協働して毎年、事業成果について評価・改善を行うためのモニタリングを実施、情報公開する。</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	607	交付限度額	197	国費率	0.325
---------	-----	-------	-----	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち負担分		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路		芸術文化通り	洞爺湖町	直接	L=120m	20	21	20	21	50	50	50		50
公園														
地域生活基盤施設		洞爺湖水広場	洞爺湖町	直接	A=4,300㎡	18	19	18	19	84	84	84		84
地域生活基盤施設		農・商連携広場	洞爺湖町	直接	A=768㎡	18	18	18	18	26	26	26		26
地域生活基盤施設		洞爺望羊台	洞爺湖町	直接	A=7,000㎡	20	21	20	21	40	40	40		40
地域生活基盤施設		錦川親水広場	洞爺湖町	直接	A=3,100㎡	21	22	21	22	41	41	41		41
高質空間形成施設		道道豊浦洞爺線	洞爺湖町	直接	L=600m	19	22	19	22	30	30	30		30
高質空間形成施設		水の駅広場	洞爺湖町	直接	A=1,820㎡	22	22	22	22	13	13	13		13
高次都市施設		湖ふれあい交流センター	洞爺湖町	直接	A=371㎡	19	19	19	19	24	24	24		24
既存建造物活用事業		芸術文化交流センター	洞爺湖町	直接	A=570㎡	18	19	18	19	47	47	47		47
地区再開発事業														
人にやさしいまちづくり事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										355	355	355	0	355

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち負担分		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
地域創造支援事業	いこいの家交流機能強化事業		洞爺湖町	直接	A=240㎡	20	21	20	21	118	118	118		118
	芸術文化交流センター整備事業		洞爺湖町	直接	A=570㎡	18	19	18	19	30	30	30		30
	湖ふれあい交流センター整備事業		洞爺湖町	直接	A=371㎡	19	19	19	19	20	20	20		20
	洞爺望羊台環境整備事業		洞爺湖町	直接	—	19	19	19	19	80	80	80		80
	錦川親水広場環境整備事業		洞爺湖町	直接	—	21	21	21	21	4	4	4		4
事業活用調査		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	
まちづくり活動推進事業		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		0	
合計										252	252	252	0	252

合計(A+B) 607

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
						○					
道道豊浦洞爺線交通安全施設工事		北海道	国土交通省			○			18	22	700
合計											700

都市再生整備計画の区域

洞爺水の駅周辺地区(北海道洞爺湖町)	面積	75.1 ha	区域	洞爺湖町洞爺町の一部
--------------------	----	---------	----	------------

